

‘日本数学会関孝和賞’

日本数学会関孝和賞の創設および第一回受賞者谷口豊三郎氏



社団法人日本数学会の活動方針は定款第5条に『この法人は数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする』と謳われている。1995年の数学会年会が50回目の年会であることを記念して、数学の研究業績以外で数学の発展に寄与し、学術文化の向上発展に著しい貢献をした個人および団体の業績を顕彰し、併せて日本数学会の活動を広く世に知らせるために日本数学会関孝和賞を制定し、谷口豊三郎氏を第一回受賞者とするを1994年9月27日の評議員会で決定した。

谷口豊三郎氏には受賞の内諾および授賞式を第50回年会の前日、1995年3月26日に行うことで内諾を得、準備中であったが、1994年10月26日に逝去された。

ここに谷口豊三郎氏が生前内外の数学界に対してなされた偉大な貢献に対して深く感謝の意を表明すると共に、謹んでご冥福をお祈りする。

日 本 数 学 会
1994 年 度 理 事 会

日本数学会関孝和賞受賞者 谷口豊三郎氏の業績

上 野 健 爾

谷口豊三郎氏は1901年大阪府に生まれ、天王寺中学、三高を経て東大工学部を卒業後、1927年大阪合同紡績に入社され、合併により東洋紡に移籍、1947年社長に就任されたが、公職追放により一日で辞任、1957年社長に復帰、1966年会長、1972年相談役に退き1977年より東洋紡名誉顧問であられたが、1994年10月26日に逝去された。天王寺中学と三高で故秋月康夫氏と同窓、また三高では故岡潔氏と同窓であった。また1970年日本繊維産業連盟の初代会長に就任し、日米繊維交渉のとりまとめに奔走された。このときの経験が、後述するように谷口

シンポジウムの創設につながった。

谷口氏は亡くなられた父君谷口房蔵氏の遺志により、1929年「谷口工業奨励会」を創設され、主として大阪、京都での科学技術の振興につくされた。大阪大学に戦前に設置されたサイクロトロンはこの会の援助によるものである。1949年頃から「谷口工業奨励会」は主として理論物理や数学への援助を行ってきた。1956年に秋月康夫氏が数学の研究活動のための資金不足を谷口氏に訴えられたのがきっかけで、日本数学振興会が設けられ、以後「谷口工業奨励会」はもっぱらこの会の育成援助を行っ